

# ゴマダラカミキリに対する各種殺虫剤の効果

## [要約]

ゴマダラカミキリの卵・幼虫に対しては有機リン剤が著しく効果が高く、クロルニコチル系薬剤も効果が高かった。また、成虫に対してはクロルニコチル系薬剤が残効性があり効果的であった。

[担当者] 病虫部 中 一晃・大橋弘和

---

## [背景・ねらい]

近年、カンキツ放任園の増加等によりゴマダラカミキリの密度が高まっており、園地で被害が増加傾向にあることから、現行の各種殺虫剤の卵・幼虫及び成虫に対する効果を再検討し、防除対策の資料とする。

## [成果の内容・特徴]

1. 樹冠散布剤での殺卵効果は、各種殺虫剤でいずれも認められ、特に、エカラックス乳剤、ダーズバン乳剤で優れた（第1表）。幼虫に対する殺虫効果は、各薬剤とも優れたが、モスピラン水溶剤については2,000倍で高く、4,000倍ではやや劣った（第1表）。
2. 株元散布剤での殺卵効果は、各種殺虫剤でいずれも優れ、特に、ダーズバン乳剤の効果が大きかった（第2表）。幼虫に対する殺虫効果はいずれの薬剤とも顕著で、薬剤間の効果の差はほとんどなかった。また、1/4濃度でも高い殺虫効果を示した（第2表）。
3. 以上の結果から、ゴマダラカミキリに対する現行の各種殺虫剤は、通常の樹冠散布濃度でも高い殺虫効果が認められ、特に株元へも散布することで、卵・幼虫にも高い防除効果が認められた。株元散布剤については薬剤間の差はなく、いずれの薬剤も高い効果のあることが確認された。
4. 成虫に対しては有機リン剤であるスプラサイド乳剤、エカラックス乳剤およびダーズバン乳剤の散布1日後の効果は高いが、残効性は著しく劣った。一方、クロルニコチル系薬剤であるモスピラン水溶剤、アドマイヤーフロアブルは、速効性、残効性とも優れ、成虫防除に有効であることが確認された（第3表）。

## [成果の活用面・留意点]

1. 7月の成虫に対する樹冠散布はロウムシ類やカイガラムシ類などとの同時防除ということになるため、カイガラムシ類等の発生が多い場合には、クロルニコチル系薬剤では効果が低いため、有機リン剤を散布し、カイガラムシ類の発生が少なくゴマダラカミキリが多発している場合にはクロルニコチル系薬剤を散布するといった選択が必要になる。

[具体的データ]

第1表 卵・幼虫に対する樹冠散布剤の効果

薬 剤 名	倍数	卵		幼虫	
		供試卵数	死亡率 (%)	供試虫数	死亡率 (%)
スプラサイド乳剤	1000	23	52.2	24	100.0
エカラックス乳剤	1000	19	89.5	26	100.0
ダーズバン乳剤	1000	31	77.4	29	100.0
マリックス乳剤	1000	31	64.5	27	100.0
アトマイヤーフロアブル	2000	27	63.0	19	89.5
モスピラン水溶剤	2000	—	—	30	93.3
	4000	37	67.6	28	78.6
無 処 理	—	39	10.3	45	0.0

第2表 卵・幼虫に対する株元散布剤の効果

薬 剤 名	倍数	卵		幼虫	
		供試卵数	死亡率 (%)	供試虫数	死亡率 (%)
スプラサイド乳剤	100	76	88.2	69	100.0
	400	—	—	66	96.9
ダーズバン乳剤	100	31	100.0	77	98.7
	400	—	—	64	95.3
ガットキラー乳剤	50	66	80.3	59	100.0
	200	—	—	60	100.0
トラサイドA乳剤	200	51	92.2	90	100.0
	800	—	—	52	98.1
マリックス乳剤	100	121	76.9	87	98.9
	400	—	—	57	98.2
無 処 理	—	79	15.2	75	1.3

第3表 成虫に対する樹冠散布剤の効果

薬 剤 名	倍数	散布後死亡率 (苦悶虫を含む)			
		1日	3日	7日	14日後
スプラサイド乳剤	1000	100%	10%	0%	0%
エカラックス乳剤	1000	100	20	30	0
ダーズバン乳剤	1000	100	0	0	0
アトマイヤーフロアブル	2000	100	100	100	0
モスピラン水溶剤	4000	100	100	100	10
無 処 理	—	0	0	0	0